

# **島本町文化財調査報告書**

**第 20 集**

**山崎・広瀬地区遺跡範囲確認調査概要報告**

**平成 24 年 3 月**

**島本町教育委員会**

## 序 文

本報告書は、町内の遺跡の広がりを把握することを目的に、国庫補助事業として、平成22年度に実施した山崎地区大型店舗建設に伴う遺跡範囲確認調査、及び、平成23年度の広瀬地区個人住宅建築に伴う遺跡範囲確認調査の成果をまとめたものです。

平成20年7月に島本町文化財保護条例を施行し、町指定文化財第1号に歴史資料「水無瀬駒関連資料」を指定し、住民共有の歴史文化遺産を広く公開することで、文化財や歴史に対する意識を高め、個性豊かな町づくりを推進しています。

また、埋蔵文化財について包蔵地の周知と保護を行うとともに、未だ遺跡の確認されていない地域での調査も実施し、新たな埋蔵文化財の発見に努めています。

島本町には、数多くの文化財の存在が周知されており、これらの文化財を保護・保全し、守り伝えていくことは私達の大切な役目と考えます。

最後になりましたが、調査にあたりまして、多大なご指導、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました土地所有者の方や近隣の皆様方には紙面をおかりして、深く感謝しお礼を申しあげますとともに、本町の文化財保護行政に対し、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成24年3月

島本町教育委員会

教育長 岡本克己

## 例　　言

1. 本書は、平成22・23年度国庫補助金事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した、山崎地区・広瀬地区の遺跡範囲確認調査報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局生涯学習課嘱託職員久保直子を担当者とし、前年度の平成23年3月8日に着手し、3月31日に終了、平成23年5月24日に着手し、島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査及び報告書作成業務を実施し、平成24年3月30日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)

【調査員】 坂根 瞬

【調査補助員】 原 由美子 木村 友紀 布施 英子

4. 本書の執筆は久保、木村(遺物編)が行い、作成・編集は久保、坂根が行なった。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用及び本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地作業及び整理作業においては、関係機関ならびに方々には貴重なご指導ご教示を賜った。ここに感謝の意を表します。

## 凡　　例

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海面 (T. P. [Tokyo Peil]) を基準とした数値である。方位は、国土座標第Ⅳ系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。
3. 遺構記号については、以下の通りである。

P : ピット S D : 溝 S X : 性格不明遺構
4. 本書で使用している北は、特に断りのない限りは「真北」を示す。

# 目 次

序 文  
例 言・凡 例  
目 次  
挿 図 目 次・付 表  
図 版 目 次

第1章 はじめに	
第1節 島本町の地理的概要	1
第2節 島本町の歴史的環境	1
第2章 調査の概要	2
第1節 山崎地区遺跡範囲確認調査	3
山崎三丁目	
調査経緯	3
1) 層位	4
2) 検出遺構	5
第2節 広瀬地区遺跡範囲確認調査	5
広瀬五丁目	
調査経緯	5
1) 層位	6
2) 検出遺構	6
広瀬一丁目	
調査経緯	8
1) 層位	9
2) 検出遺構	9
3) 出土遺物	11
広瀬一丁目	
調査経緯	14
1) 層位および検出遺構	15
2) 出土遺物	16
第3章 平成23年度埋蔵文化財調査概要	16
第4章 まとめ	17

## 挿図目次

第1図 島本町内遺跡分布図（1／10,000）	
第2図 調査地位置図（1／2,500）	3
第3図 調査地平面図・断面図（1／100）	4
第4図 調査地位置図（1／2,500）	6
第5図 調査地平面図・断面図（1／125）	7
第6図 調査地位置図（1／1,000）	8
第7図 調査地平面図・断面図（1／50）	10
第8図 調査地平面図・断面図（1／50）	11
第9図 平成23年度 立会い調査出土瓦	11
第10図 出土遺物実測図（1／3・1／4）	12
第11図 調査地位置図（1／2,500）	14
第12図 土層柱状図（1／20）	15

## 付 表

付表1 本報告書掲載遺跡	3
付表2 平成23年度 埋蔵文化財調査の届出・通知の工事内容内訳	16

## 図版目次

### 図版一 山崎地区

- 第1 グリッド全景（東から）
- 第2 グリッド全景（東から）
- 第3 トレンチ全景（北東から）

### 図版二 広瀬地区（広瀬遺跡・五丁目）

- 調査前風景（南西から）
- 調査地全景（西から）
- 調査地拡張区（南東から）

### 図版三 広瀬地区（広瀬遺跡・一丁目）

- 第1 グリッド全景（東から）
- 第2 トレンチ全景（北から）
- 第2 トレンチ石群検出状況（西から）

### 図版四 広瀬地区（広瀬遺跡・一丁目）

- 第3 グリッド全景（東から）
- 第4 トレンチ全景（北から）
- 第4 トレンチ土器出土状況（北から）

### 図版五 広瀬地区（広瀬遺跡・一丁目）

- 第1 グリッド南壁の状況（北から）
- 第1 グリッド遺構検出状況（北から）
- 第2 グリッド西壁の状況（東から）
- 第2 グリッド遺構検出状況（東から）

### 図版六 広瀬遺跡出土遺物（軒丸・軒平瓦）

### 図版七 広瀬遺跡出土遺物（丸・平瓦）

### 図版八 広瀬遺跡出土遺物（土師器）



1. 山崎古窯
2. 【府指】有文 関大明神社本殿
3. 錦谷瓦窯跡
4. 【重文】水無瀬神宮客殿・茶室
5. 水無瀬神宮跡
6. 桜井駅跡 (6)【史】桜井駅跡(楠木正成伝承地)
7. 伝待宵小侍從墓
8. 越谷遺跡
9. 源吾山古墳群
10. 水無瀬古跡
11. 御所池瓦窯跡
12. 桜井造跡
13. 桜井廻所跡
14. 広瀬造跡
15. 広瀬南造跡
16. 【府指】天 尺代のヤマモモ
17. 【府指】天 大沢のスギ
18. 山崎西遺跡
19. 神内古墳群
20. 山崎東遺跡
21. 【府指】天 石山神社「ツブライジ林」
22. 御所ノ平遺跡
23. 青葉遺跡
24. 広瀬農田遺跡
25. 錦谷遺跡
1001. 西園街道

第1図 島本町内遺跡分布図 (1 / 10,000)

## 第1章 はじめに

### 第1節 島本町の地理的概要

島本町は、大阪府の北東端、京都府との境に位置する面積16.78km<sup>2</sup>の町である。北は京都市西京区と長岡京市、北東は大山崎町、東南は八幡市、南は枚方市、西は高槻市に隣接する。

町の面積全体の約7割を山岳丘陵地が占め、人口約3万人の自然豊かな町で、町域の東南部で、木津川、宇治川、桂川の三川が合流して南西に流れる淀川が造り出す地形は、北側の天王山山塊と南の生駒山地の南端となる八幡市の男山丘陵とを分ける山崎狭隘部と呼ばれる。

自然環境の面でも「大沢のスギ」や「尺代のヤマモモ」「若山神社のツブライジ林」が大阪府指定の天然記念物に指定されており、豊かな自然が残されている土地でもある。また水無瀬神宮の「離宮の水」は後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮にちなんで名付けられたと言われており、昭和60年7月に大阪府内で唯一、環境庁認定の「名水百選」に選ばれている。

### 第2節 島本町の歴史的環境

島本町では、国指定史跡桜井駅跡をはじめとして、多くの遺跡や文化財が周知されている。

島本町における人々の生活の始まりは旧石器時代にさかのぼる。山崎西遺跡は未調査のため様相は不明であるが、サヌカイト製の國府型ナイフ形石器とチャート製の剥片数点が採集されていることから、旧石器時代の終わり頃から人々が生活し始めたと考えられる。町の西側に位置する越谷遺跡では縄文時代後期に相当する北白川上層式1期から2期の鉢・壺が多く出土し、弥生時代の土器も出土していることから、狩猟・採集の時代から集団で稲作を始める頃へと、人々の生活が途切れることなく営まれたことが想像される。

その地より東側西国街道に近い青葉遺跡や史跡桜井駅跡周辺においても近年、弥生時代中期から後期にかけての土器が出土しており、広い範囲で古代から生活が営まれたと考えられる。

桜井地区の源吾山古墳群と高槻市にまたがる神内遺跡からは、名神高速道路建設時に古墳時代の土器や鉄器が採集され、付近に古墳や古墳時代の集落があったことを示している。

奈良時代に入ると、奈良の東大寺に瓦を供給したのではないかとされる鈴谷瓦窯が造られた。この地の南に位置する御所ノ平遺跡では鈴谷瓦窯跡で出土したものと同種の瓦が出土し、竈付の住居跡が検出されたことから、瓦の工人の住居ではないかと考えられた。西国街道を中心には広がる広瀬遺跡でも集落跡の存在が確認されており、広範囲にわたって、生活の場が存在したと考えられる。また、水無瀬川の西岸部には、東大寺正倉院に残る日本最古の絵図「摂津国水無瀬莊図」に描かれる奈良東大寺領の荘園「水無瀬莊」が造営された。

その後、平城京から長岡京、平安京へと遷都されていくにつれ、島本町は水・陸の交通上重要な位置を占めるようになった。『延喜式』にある山崎駅の記述や『土佐日記』『更級日記』な

どには、山崎津の賑わう様子が記載されている。平安時代以降には桓武天皇や嵯峨天皇が頻繁に訪れ、中でも後鳥羽上皇は、鎌倉時代のはじめに水無瀬に離宮を造営し遊興の時を過ごした。中世期以降には、「太平記」の記述で有名な史跡桜井駅跡がある。

この史跡は延元元年（1336）足利尊氏の大軍を迎撃つため京都を発った楠木正成がここで長子の正行に遺訓を残して河内へと引き返せた「楠公父子別れの地」として広く世に知られ、現在もこの地を訪れる観光客は後を絶たない。また、時代はさかのぼるが、桜井駅跡は奈良時代の初め、京から西国に向かう道筋に設置された駅（うまや）の一つに「大原駅」が『続日本紀』に記され、これが桜井駅跡の地を指すものとも考えられている。

## 第2章 調査の概要

本調査事業は、平成13年度から国庫補助事業として島本町内で周知される埋蔵文化財包蔵地範囲内、及び包蔵地外で構造や遺物の有無などを確認するために行なっているものである。

初めに報告する山崎地区の調査は、前年度に行なった調査で、年度末に実施したため島本町文化財報告書第17集では報告できなかったので、本書において記述するものである。

調査は、大型スーパーの店舗建設に伴う緊急遺跡範囲確認調査である。

調査地は遺跡包蔵地外にあたるが、開発場所が近世西国街道（旧山陽道）に隣接していること、また、この付近は交通の要衝にあたり、近くには、都などで大事が起った場合に出入り口が閉鎖できるよう閑門（西の黒門）が設けられていたということもあり、それらに関係する遺構の検出が考えられ、地権者にお願いし、協力を得て調査を行うことができた。

次にあげる広瀬地区については、島本町内遺跡包蔵地「広瀬遺跡」3件の調査で、平成元年より調査を本格的に実施し、水無瀬莊跡に関係する遺構や、近年では水無瀬離宮造営に係ると考えられる遺構の検出など大きな成果を上げてきた。

今年度は個人住宅の新築工事に伴う範囲確認調査2件と店舗に伴う新築建物工事に伴う発掘調査の試掘調査を1件実施し、狭い調査範囲ではあったが、調査地の一部では中世～近世層の遺構を確認し、西国街道（旧山陽道）との関係を示唆するものとなった。

なお、今年度実施した調査がもう一件あったが、調査開始時期が本書作成間際（平成24年1月12日から開始、1月20日に終了）だったため、掲載することができなかった。この調査は、平成21年度、島本町で初めて水無瀬離宮跡に関係すると考えられる建物跡が発見された調査地の北側で行っている。調査地は、島本町の所有する取水場で、前回の調査及び、今年度の個人住宅での確認調査時にも、建物跡の延長と考えられる遺構を検出しているため、調査成果をさらに裏付ける遺構の検出を想定して実施した。

この調査結果については、来年度の報告書に併せて記載することとする。

遺跡名（地区名）	遺跡所在地	調査期間
山崎地区	島本町山崎三丁目 地内	平成23年3月8日～3月17日
広瀬遺跡	島本町広瀬五丁目 地内	平成23年5月24日～5月26日
広瀬遺跡	島本町広瀬一丁目 地内	平成23年6月22日～6月30日
広瀬遺跡	島本町広瀬一丁目 地内	平成23年12月13日

付表1 本報告書掲載遺跡

## 第1節 山崎地区遺跡範囲確認調査

### 山崎三丁目

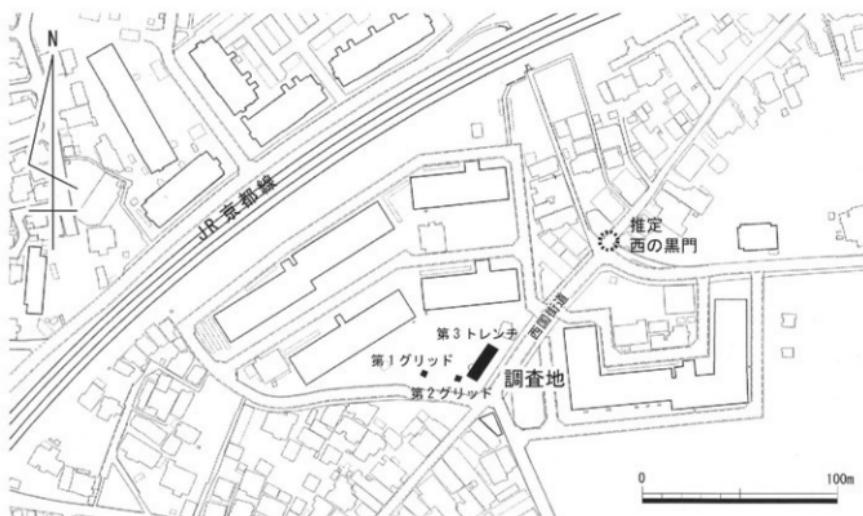
調査期間：平成23年3月8日（火）から3月17日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町山崎三丁目 地内

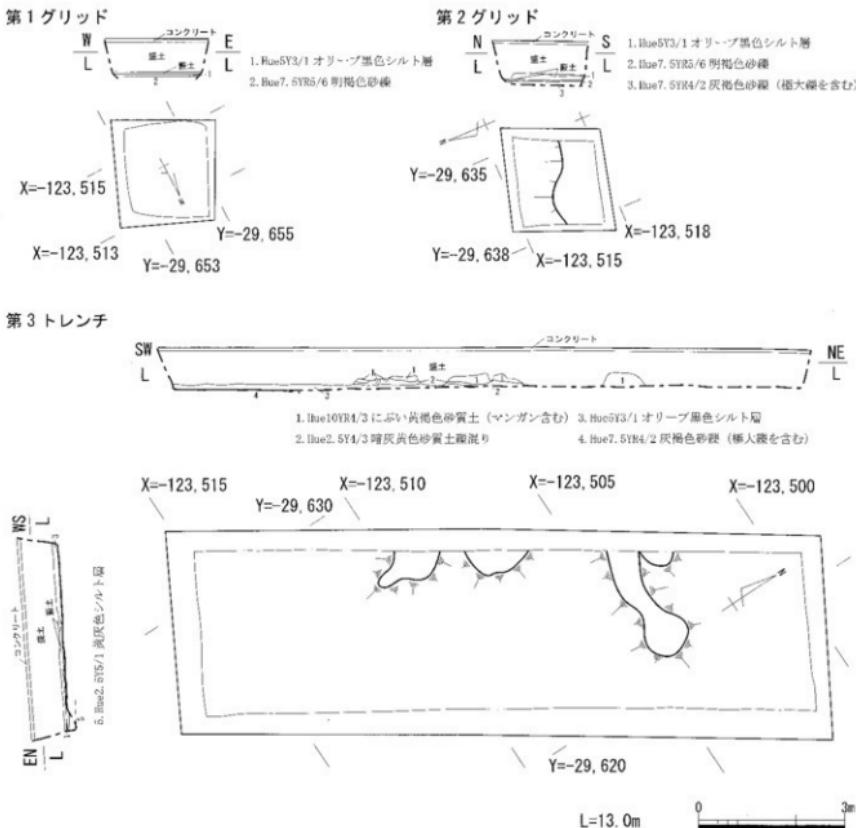
調査面積：約138m<sup>2</sup>

### 調査経緯

調査地は、現在の西国街道（旧山陽道）に隣接しており、古代、あるいは近世の道路造構の検出が十分考えられた。今回の大型店舗建設に伴い、深い基礎掘削が予定されていたため、埋蔵文化財包蔵地外であったが、山崎地区周辺の古代の歴史を知るため調査の実施を計画した。



第2図 調査地位置図 (1/2,500)



第3図 調査地平面図・断面図 (1/100)

調査は約3.0×3.0mの試掘坑を2ヵ所（第1・2グリッド）と西国街道に面して北西方向に約20.0m、幅約6.0mのトレーニング（第3トレーニング）を1ヵ所設定して行なった。

まず第1・2グリッドを掘削して付近の層位を確認し、埋め戻した後、第3トレーニングの掘削を行なった。

### 1) 層位（第3図）

第1・2グリッドでは盛土が約1.0mあり、次にオリーブ黒色のシルト層が広がる。その下層に褐色の砂礫層とさらにその下層には、大礫を多く含む層が続き、この2層は流路の氾濫層

と思われる。

第3トレンチは、同様の層位が広がるが、暗灰黄色砂質土（2）に、若干の土器を含んでいた。

## 2) 検出遺構（第3図・図版一）

期待された古代あるいは近世の道路遺構の検出には至らなかった。

遺構の大部分は壊されており、攪乱された状況であったが、調査地の一部分で、土器類（須恵器、土師器、瓦器など）が出土した。しかし、それらの土器に伴うはっきりとした生活遺構面の検出はできなかった。

また、調査地の断面を観察すると、上面のほとんどが攪乱を受けており、下層面の層位からは、灰色のシルト層が深く続き、現地表面から、約1.0mを超えると水が湧き出てくることから、この付近は、水位が低く近くを流れる水無瀬川の氾濫を何度も受けながら生活面を構成していったことが想像された。

戦後、この付近に工場（ユニチカ）関連施設として、社宅が建っていたことや、また、その娛樂施設として芝居小屋があったようで、そのため、上面のほとんどが攪乱を受けてしまっていたため、結果、明確な生活面を見つけることはできなかった。土器などの出土も見られたが、時代が多岐に渡っており、これらの土器は川の氾濫時に下層の時代の遺物を巻き込んだとも考えられる。出土した土師器や須恵器に関しては、古い時代のものがあり、付近では古代より生活が営まれていた可能性がある。

今後の周辺の調査によっては、新たな事実が分かるかも知れない。

## 第2節 広瀬地区遺跡範囲確認調査

### 広瀬五丁目

調査期間：平成23年5月24日（火）から5月26日（木）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬五丁目647-1

調査面積：約78.8m<sup>2</sup>

### 調査経緯

個人の新築住宅数件の建設に伴う範囲確認調査で、予定地は耕作地であったため、現状の道路部分まで造成を行う予定であった。以前に調査地近隣の住宅開発に伴い、道路部分の立会調査を行なったところ、包含層を確認しており、数点の土師器類も採取していた。そのため、個々に立会いを実施する予定であったが、造成前に、駐車場予定部分の調査を実施し、遺構面の有無を確認することとした。

東西方向に約27.5、幅約2.5mのトレンチを設定し、一部トレンチ拡張区として、南北方向に



第4図 調査位置図 (1/2,500)

約4.0×2.5mの拡張を行なった。

### 1) 層位 (第5図・図版二)

耕作土の下には、マンガンを含んだ褐色の砂礫層（2）が広がる。その下層には近世層である黄褐色土層（3）があり、この層に若干の土器が出土した。この下層には流路の氾濫を受けたと思われる大きな礫を含んだ暗オリーブ褐色土（4）と褐色のシルト層が続く。

### 2) 検出遺構

明確な遺構の確認はできなかった。

トレンチの中ほどで土器類が出土したが、遺構に伴うものではなかった。調査地の東端に現在も使用しているアゼが残っており、掘削を行ったところ、一部包含層が見られた。しかし、現在の耕作土より、やや上面か、あるいはほぼ同じ高さの場所に存在し、遺構面はすでに削平を受けてしまったと考えられる。

トレンチの拡張区では、一部地表より約-2.5mの地点で下層の断面確認を行なったが、シルト層が続き、包含層は確認できなかった。



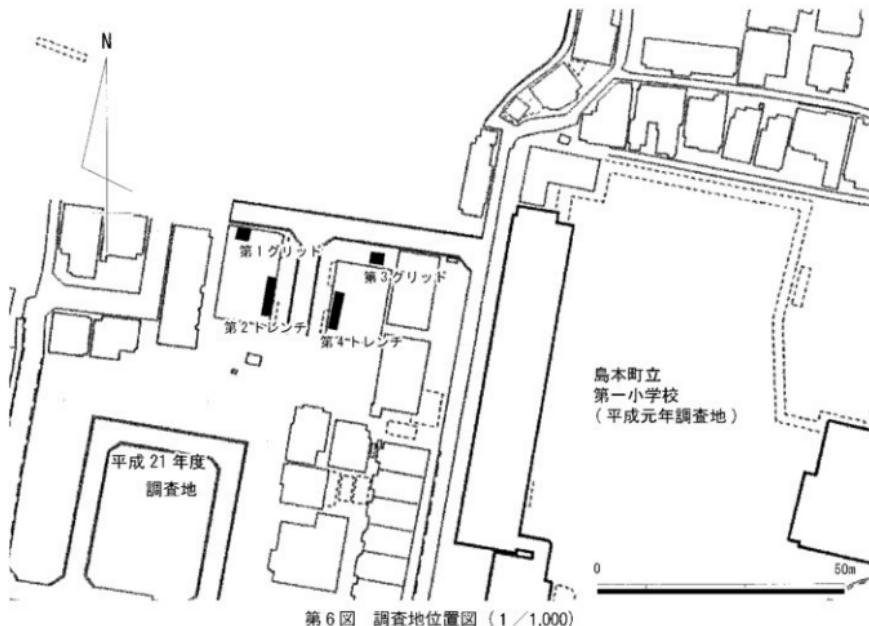
第5図 調査地平面図・断面図 (1 / 125)

## 広瀬一丁目

調査期間：平成23年6月22日（水）から6月30日（木）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬一丁目955-1

調査面積：約57m<sup>2</sup>



## 調査経緯

調査は個人住宅建設に伴って、宅地の一部を対象に発掘調査を実施した。

この調査地は、平成21年度の調査で水無瀬離宮と同時代の建物跡や瓦が検出された場所の北側に位置している。平成22年度に行なった周辺地域の調査でも、瓦が投機された土坑の検出や地業の痕跡と思われるものが見つかっており、今回の調査についても、これらの建物に関連する施設跡の存在や瓦などの出土が予想された。

調査場所については、住宅建設予定地の駐車場部分を対象とした。掘削は東西約3.0m、南北2.5mのグリッドを2ヶ所（第1・3グリッド）、また、東西約3.0m、南北約7.0mのトレン

チを2ヶ所（第2・4トレンチ）の計4ヶ所の設定を行なった。

#### 1) 層位（第7・8図・図版三・四）

調査地の4ヶ所の層位は開発以前には、共同住宅が2棟建っていたため、かなりの盛土が形成されていた。

4ヶ所ともほぼ同様の層が広がっていた。一部、近世に攪乱された場所もあったが、比較的良好な状態で遺構面が残されていた。

地表から約0.8mの盛土があり、すぐ下には0.15mの耕作土が広がっていた。この耕作土の下層には近世の旧耕作土と思われる灰黄褐色砂質土が続き、その下には、マンガンを含む褐色砂質土層が薄く走っている。その下には、褐色砂質土が全面に広がり、この層からの出土した遺物より中世の遺構面と考えられる。その下には、褐色のシルト層があり、暗褐色砂質土層へと続く。この層からは土師器や瓦類が多く出土している。その下には礫層があり、建物造営時の地業の痕跡とも考えられる場所もあった。

#### 2) 検出遺構（第7・8図・図版三・四）

##### ①第1グリッド

西端で、石溜りを検出した。地業の一部ではないかと考えられる。建物の根石の痕跡と思われる並びがあり、一間は東西方向に約2.4mであった。調査地が狭く南北方向には確認できなかった。石の並びが間ばらのため、断定はできないが、建物があった可能性は高いと思われる。

##### ②第2トレンチ

トレンチの南側で、幅約2.0mの石溜りを検出した。地業とも考えられるが、石の並びに入る土が砂質で、地盤があまりしっかりとしていないことから、流路の可能性もある。

##### ③第3グリッド

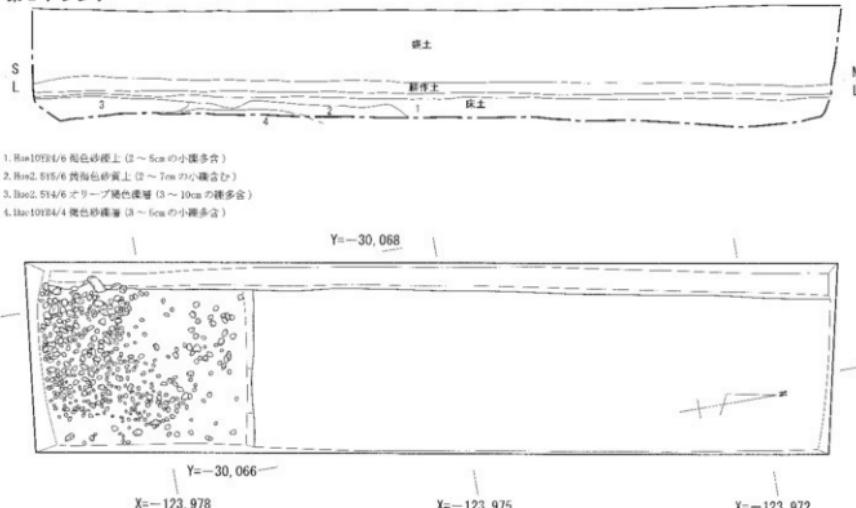
一部攪乱を受けた形跡があるが、北側では、東西・南北方向に並ぶ石敷きがみられた。14世紀代と見られる土師器片が多く出土しており、また、これらの土器類よりは古相を呈する瓦片が出土している。

##### ④第4トレンチ

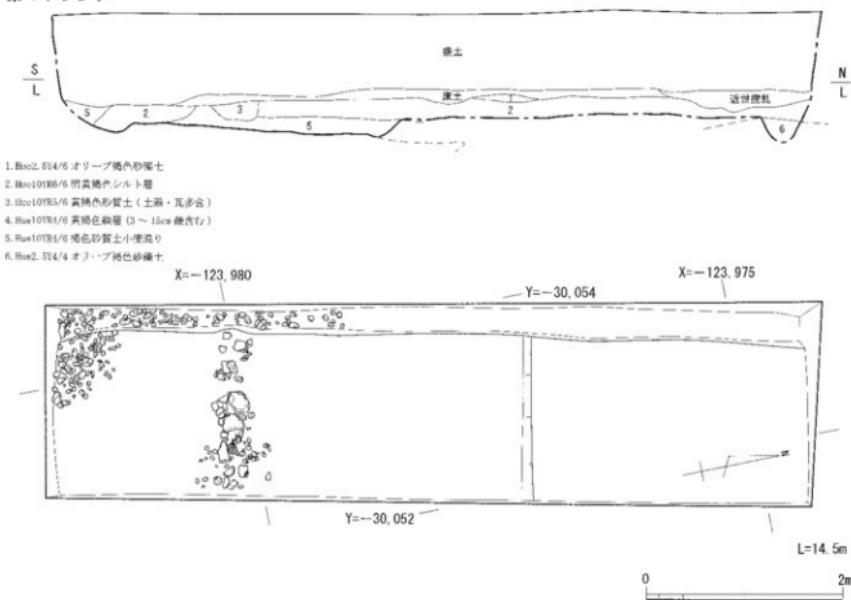
南端では、第2トレンチで検出したものと類似した石溜りを検出した。両トレンチは並行しているので、繋がっている可能性が高い。

石溜りの北側約1.0mの地点では軒丸・軒平瓦、土師器の皿などが出土した東西方向の幅約0.6mの溝状の遺構を検出した。しかし、明確な溝の肩はわからなかった。この溝状の遺構と石溜りを関連遺構と考えると、第2トレンチの石溜りも地業と考えられ、建物の一部の可能性が高い。

## 第2トレンチ

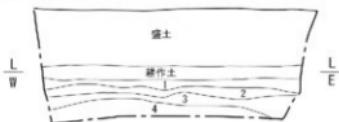


## 第4トレンチ

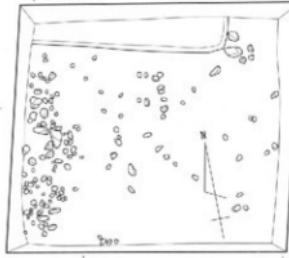


第7図 調査地平面図・断面図 (1/50)

第1グリッド



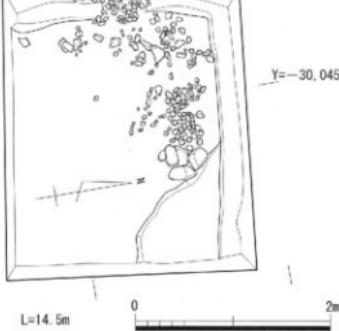
1. Rue2.514/6オリーブ褐色砂質土(灰色に丸り)床土
2. Rue10785/6黄褐色砂質土
3. Rue10784/5黄色砂質土砂礫混り
4. Rue10784/6白色砂質土細粒り(10~15cm)

 $Y=-30,073$  $Y=-30,071$  $X=-123,962$  $X=-123,963$ 

第3グリッド



1. Rue2.514/4オリーブ褐色砂質土(2~5cmの小礫多穴)
2. Rue10785/6黄褐色シルト層
3. Rue2.514/6オリーブ褐色小礫限り土

 $X=-123,966$  $Y=-30,045$  $L=14.5m$ 

0

2m

第8図 調査地平面図・断面図（1／50）

### 3) 出土遺物

今回の調査での主な出土遺物は、瓦と土師器類で第4トレンチからのものがほとんどであった。中でも、出土した瓦は、調査地の南側で実施した水無瀬離宮に関連する調査（平成21年度）で出土した瓦と時代・胎土・焼成・法量がよく似ていることから、何らかの関わりがあったと考えられる。しかし、土師器片やその他の出土遺物については、全体的に水無瀬離宮造営時期よりは新しく、離宮の廃絶後、建物が何らかの施設として利用され続けたのではないかと考えられる。いずれにしても、出土遺物が少ないため断定はできないが、遺構の検出状況と考え合わせると可能性は高いと考えられる。

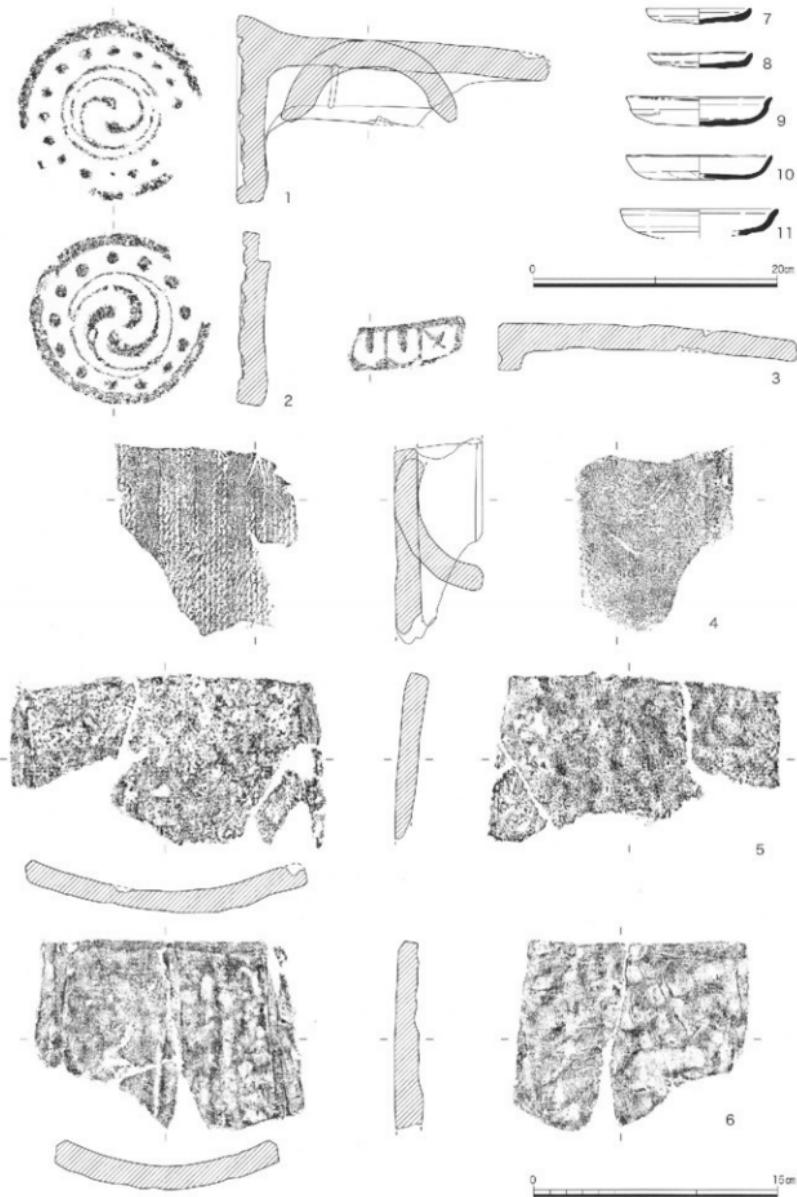
#### 軒丸瓦（第10図・図版六）

（1）は右巻二ッ巴文の軒丸瓦である。

巴の周りには太い圓線を巡らせ、更にその周囲に17個の大きな珠文を密に配する。平成21年度の広瀬遺跡（国木原）出土の軒平瓦第1型式第11種にあたる。



第9図 平成23年度 立会い調査出土瓦



第10図 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

(2) は右巻三ツ巴文の軒丸瓦である。巴文の周りには13個の大きな珠文を疎に配する。

#### 軒平瓦（第10図・図版六）

(3) は剣頭文の軒平瓦であるが、向かって右端は剣頭文ではなく、四角内に「×」が描かれている。平成23年度の広瀬遺跡（国木原）の立会い調査でも1点出土している。（第9図）

#### 丸瓦（第10図・図版七）

(4) は丸瓦である。凸面には縄タタキの後にハラ書きで「×」が記されている。凹面には不明瞭であるが細緻な布目痕が残る。

#### 平瓦（第10図・図版七）

(5・6) は平瓦である。(5) は(6)と比べると大型の平瓦であるが、厚さは薄く、焼成があまい。凸面はタテナデが施されており、タタキ痕は残らない。凹面には布目痕が残らず、離れ砂が付着する。(6) は平成21年度の広瀬遺跡（国木原）出土の平瓦、第1型式とほぼ同じ大きさの小型の平瓦であるが、凹面側端縁・狭端縁に面取りを施している点が異なる。また、白色の精緻な胎土を使用しており、焼成も良く、堅緻である。凸面は指オサエ痕のみで、タタキ痕は残らない。凹面には細緻な布目痕が残る。

#### 土師器（第10図・図版八）

(7・8) は口径約6.0cm前後の小皿である。口縁部はヨコナデを施し、端部はやや外反しながら丸く収めている。(9~11) は口径約9.0cm前後の皿で小皿と同様に口縁部にヨコナデを施している。端部は外反しながら、内側に面を持たせているものもある。

#### その他の遺物

図化し得なかった遺物についての概要を以下に示す。

第1グリッド、第2トレチでは、ほとんど遺物が出土しなかった。僅かに瓦片と土師器片が出土したが、器種の特定にはいたらなかった。

第3グリッドから出土した遺物は構状の遺構からのものが殆どで、今回本報告書に掲載した遺物のほかにも軒丸瓦や丸・平瓦片が出土している。土師器皿も前述のように口径が2種類に分類することができ、地域色を持った樟葉型のものが大半を占めている。中には京都産のものと思われるものが若干混じっているが、ここでも地域的な要素を持つものと思われる。

第4トレチでは、石敷き周辺に集中して丸・平瓦が出土している。第3グリッドから出土した瓦類と胎土・焼成・色調などが類似しており、ほぼ同時期のものと考えられる。また、この両者とも焼成を受けたのか、非常にもりい状態のものが多い。

瓦類の時期は12世紀後半～13世紀頃、土師器類や瓦以外の遺物については、少し新しい14世紀代のものが多くみられる。

## 広瀬一丁目

調査期間：平成23年12月13日（火）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬一丁目883-1

調査面積：約4.5m<sup>2</sup>



第11図 調査地位置図 (1/2,500)

## 調査経緯

J Aたかつき島本支店事務所棟移転に伴う新築工事の試掘調査である。

調査地は西国街道（旧山陽道）に面しており、また、東側には水無瀬神宮、西側には平成22～23年度にかけて調査を実施し、コンテナ50数箱もの土師器皿が出土した調査地があり、その中間地点にあたるこの場所でも、重要な遺構を検出する可能性が高いと考えられた。

試掘調査は建物建設の予定地の東側端と西側端の2ヶ所に東西方向に約2.5m南北方向に約2.0m、深さ約2.0mのグリッドを設定して実施した。

なお、この調査は今回の試掘結果を受け、本調査を実施する予定である。

## 1) 層位および検出遺構（第12図・図版五）

### 第1グリッド

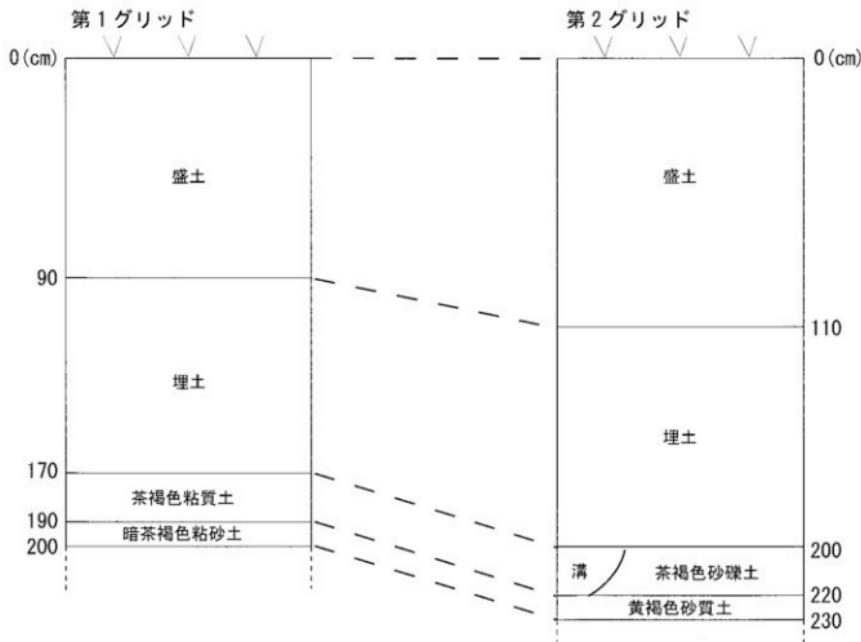
地表面より約1.1mの盛土が堆積し、その下層は約0.9mの擾乱層が広がる。その下には茶褐色粘質土層と暗茶褐色粘砂土層の遺物を含む包含層が広がる。

包含層では土坑（掘穴）を検出し、出土した土器などから、中世後半～近世のものと思われる鉢など出土した。

### 第2グリッド

西側と同様、深い盛土の堆積があり、下層には擾乱層が広がる。地表面から約-2.0mの地点で、深さ約0.2mの溝と整地された層を検出した。

調査地の東側には西国街道が走っていることから、道路遺構の関連も考えられる。両グリッドでは、いずれも擾乱された層が見えるが、この層にも土師器や瓦器の破片が多く含まれており、水無瀬川の氾濫によって生活面が流されては形成されるといったことが何度も繰り返されたのではないかと考えられる。



第12図 土層柱状図 (1 / 20)

## 2) 出土遺物

土師器類、瓦器、瓦質羽釜、瓦、陶磁器類など多種に渡って出土している。古相を呈するものもいくつか出土しているが、全般的に近世～近代のものが多い。

中でも、瓦質の羽釜と土師器皿が多く出土している。

## 第3章 平成23年度埋蔵文化財調査概要

この章では、島本町内で平成23年度に実施した埋蔵文化財調査についての概要を報告する。

平成23年度の「埋蔵文化財発見の届出・通知」件数は、平成24年1月31日の時点で72件である。この届出・通知にかかる工事内容は下表（付表2）のとおりである。これらに対する指導事項は、開発事業に伴う立会調査18件、発掘調査2件、慎重工事53件である。また、島本町では、平成20年7月1日より文化財保護条例を施行し、条例の第18条第4項において「埋蔵文化財の包蔵地が周知されている土地以外の土地において、土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で掘削しようとするときは、その内容について教育委員会と協議する」ことを定めた。その条例に従い埋蔵文化財包蔵地外においても届出の提出をお願いし協議、指導を行なっている。埋蔵文化財包蔵地外での開発事業に伴う「土木工事計画届出・通知」件数は73件、うち立会い調査は5件である。

道路	0件	鉄道	0件	空港	0件	河川	0件
港湾	0件	ダム	0件	学校	0件	宅地造成	0件
個人住宅	59件	分譲住宅	1件	共同住宅	1件	兼用住宅	0件
その他住宅	0件	工場	0件	店舗	1件	土地区画整理事業	0件
公園造成	0件	ゴルフ場	0件	観光開発	0件	ガス	6件
電気	0件	水道	2件	下水道	0件	電話通信	0件
農業基盤	0件	農業開発	0件	土砂採集	0件	その他	2件

付表2 平成23年度 埋蔵文化財調査の届出・通知の工事内容内訳

付表2のとおり、島本町教育委員会における埋蔵文化財調査は、個人住宅の新築・建て替えと宅地開発及び分譲住宅に伴う工事立会いが大半を占め、基礎工事及び基礎杭打設工事の事前調査のために個々の調査面積は極めて狭いものであった。調査の対象となった遺跡は、包蔵地としての範囲が広いこともあって広瀬遺跡が27件と最も多く、次いで、水無瀬莊跡遺跡24件、西国街道5件、山崎西遺跡3件、鈴谷遺跡3件、桜井御所跡遺跡2件、御所ノ平遺跡2件、鈴谷瓦窯跡遺跡・桜井駅跡遺跡・桜井遺跡・水無瀬離宮跡遺跡は各1件である。

次に、平成23年度の埋蔵文化財調査の届出における調査成果を述べる。

島本町における平成23年度の原因者による埋蔵文化財発掘調査の中で、大きな成果をあげたのは、広瀬地区内の埋蔵文化財包蔵地「広瀬遺跡」での調査である。詳細については島本町文化財報告書第18集にあるので、ここでは概略を記述する。

住宅の開発に伴う造成工事の道路部分での発掘調査である。平成23年1月より開始した調査地の一部で、非常大きな石で丁寧に組まれた石組井戸一基と、人口的に構築されたと思われる石敷きが検出された。この調査結果を受け、4月から新たに道路の延長部分の調査を実施し、結果、農道として最近まで使用されていたアゼの斜面にコンテナ数で50数箱の土器が出土し、しかも、土師器の皿類がその95%を占めるといったような出土状態であった。このような状況を考えると、この場所で何らかの祭祀的な行事が行なわれたか、あるいは、関連する施設が存在したのではないかと考えられる。

当然、広瀬遺跡内ということで、平成21年度に発見された水無瀬離宮跡に関連する施設の遺構検出も想定に入れながら発掘調査を行なったが、検出された遺構や遺物類は、残念ながら水無瀬離宮造営時よりも少し新しい時代のものであった。しかし、大量の土器の出土状況や他の出土土器に天目茶碗や大型の鉢などがあることや、水無瀬離宮と何らかの関係があったであろう周辺の環境を考えるとまったく関係がないとも言い切れない。検出された石敷きは、調査地が水無瀬川のすぐ南側であったことから、この地域は何度も増水に見舞われたと考えられ、そのための護岸である可能性も高いが、古地図などによると、周辺に寺が存在していたという表記もあるため、寺の造営時の基礎事業の可能性も考えられた。石敷きの構築された時代は、石敷き内から出土した土器より、鎌倉時代後半～江戸時代と考えられ、中世以降の広瀬地区の様相を知るには、貴重な資料と考えられる。

今後遺物の整理を進め、遺構の性格の解明と時代決定をしていきたい。

## 第4章 まとめ

この章では、平成23年度に行なった町内の遺跡範囲確認調査国庫補助事業についての主な成果を以下に報告するものとする。

今回の調査で大きな成果をあげられたのは、広瀬地区内で実施した、水無瀬離宮跡に関係すると考えられた「広瀬遺跡」での調査である。

平成21年度に水無瀬離宮跡と同時代の建物に關係する施設が発見されたことや、多数の軒丸・軒平瓦の出土したことから、平成22年度には個人住宅建設時に、その調査地で検出された建物跡の延長部分での試掘調査を行ない、結果、建物施設の広がりや、また、建物の造営はなかったと想定していた場所で軒丸・軒平瓦が出土したことから、付近に何らかの関連施設が

あったことも考えられるようになってきた。今年度はさらに北側で個人住宅の開発があり、小規模ではあるが、試掘調査を実施し、この地に至っても、やはり、水無瀬離宮造営時と同時代の瓦類が出土し、また、施設の一部と考えられる石敷きや溝状の遺構検出は、施設の広がりを考える上で貴重な考古資料の発見となったことには違いない。また、今回の調査では出土した土師器類など瓦以外の遺物について、水無瀬離宮造営時より新しいことから離宮廃絶より以降、離宮がどのようになっていったのかは良く分らなかったが、利用方法は別にしても、建物そのものや一部についても利用され続けた可能性が出てきた。これは、非常に大きな調査の成果と考えられる。前述の「広瀬遺跡」（島本町文化財報告書第18集）の調査での大量の土器の出土から見ても大きな期待が持てるものと考える。

以上のように、今まで明確でなかった水無瀬離宮関連施設についても、その範囲の広がりが徐々に分かりつつある。今年度は、埋蔵文化財の届出件数も昨年に比べるとほほ横ばいにはなってきているが、依然、広瀬遺跡内での開発は非常に多く、また、大きな成果を上げてきている。埋蔵文化財包蔵地内・外での立会い調査や遺跡範囲確認調査は地域の歴史や、また日本の歴史を考える上では非常に重要な役割を果たしていると言える。特に島本町では後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮が存在していたことから日本の中世、特に院政期を考える上での重要な基礎資料につながり、かつ、島本町内の貴重な遺跡を保護していく上でも貴重と考えられる。今後も計画的な遺跡の調査を行い、その保護・保全に努めていきたい。

また、こうした調査をはじめとする文化財保護に係る施策は申請者や住民の方々の理解・協力に成り立つもので、今後ともそうした助力を求めながら保護に努めていきたい。

#### 〈参考文献〉

- 島本町史編さん委員会編 『島本町史 本文編』 1975
- 島本町教育委員会 『島本町埋蔵文化財調査報告書』 第1集 1991
- 島本町教育委員会 『島本町埋蔵文化財調査報告書』 第17集 2011
- 島本町教育委員会 『島本町埋蔵文化財調査報告書』 第18集 2012
- 島本町教育委員会 『島本町埋蔵文化財調査報告書』 第19集 2012

## 図 版



第1グリッド全景（東から）



第2グリッド全景（東から）



第3トレンチ全景（北東から）

図版二  
広瀬地区（広瀬遺跡・五丁目）



調査前風景（南西から）

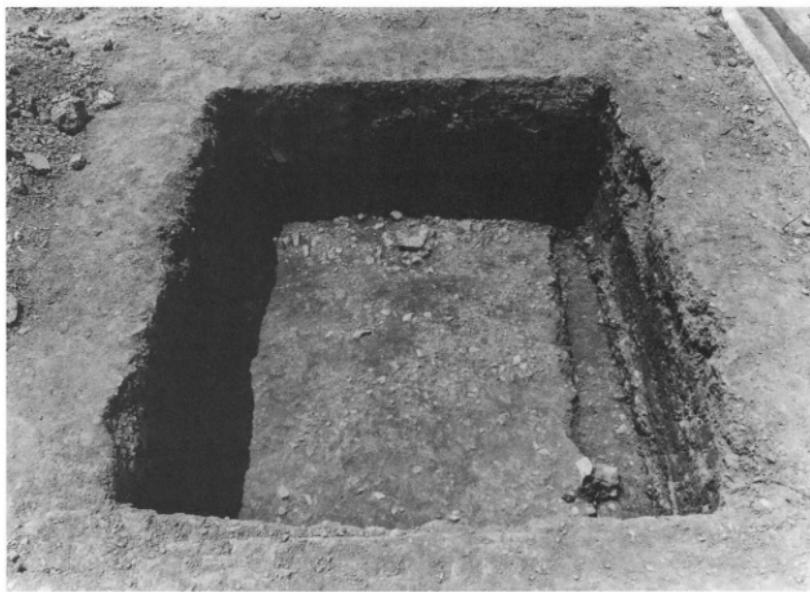


調査地全景（西から）



調査地拡張区（南東から）

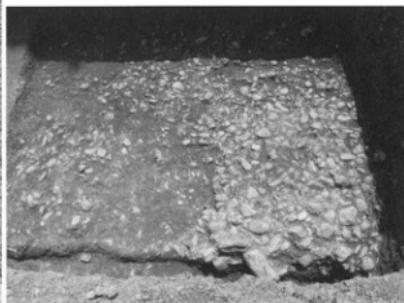
図版三 広瀬地区（広瀬遺跡・一丁目）



第1グリッド全景（東から）



第2トレンチ全景（北から）



第2トレンチ石群検出状況（西から）

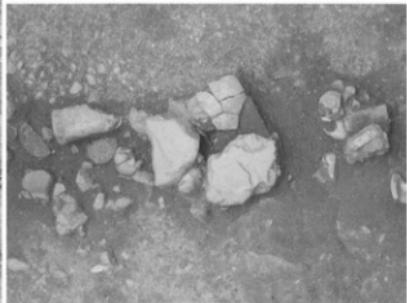
図版四  
広瀬地区（広瀬遺跡・一丁目）



第3 グリッド全景（東から）



第4 トレンチ全景（北から）



第4 トレンチ土器出土状況（北から）



第1グリッド南壁の状況（北から）



第1グリッド遺構検出状況（北から）



第2グリッド西壁の状況（東から）



第2グリッド遺構検出状況（東から）

図版六

広瀬遺跡出土遺物

(軒丸・軒平瓦)



1



2



3



1



3



1



3

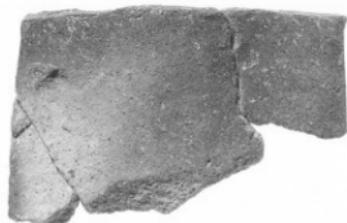
図版七 広瀬遺跡出土遺物（丸・平瓦）



4



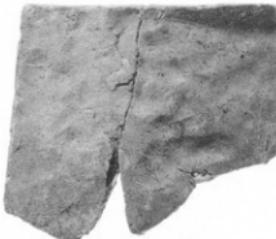
4



5



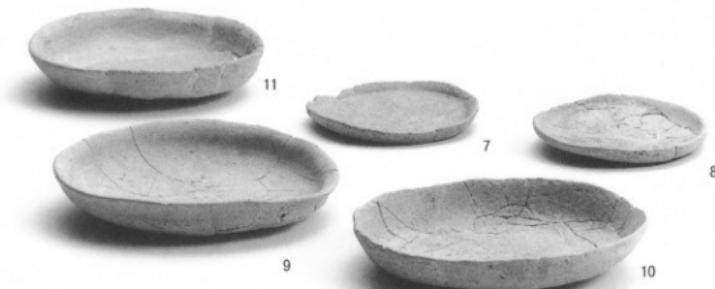
5



6



6



島本町文化財調査報告書  
第20集

発行 島本町教育委員会  
〒618-8570 大阪府三島郡島本町板井二丁目1番1号

Tel. 075-961-5151

発行日 平成24年3月30日  
印刷 三星商事印刷株式会社  
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル舟町300  
Tel. 075-256-0961

# 報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさはうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	山崎・広瀬地区遺跡範囲確認調査報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第20集
編著者名	久保直子、坂根 勝
編集機関	島本町教育委員会事務局 生涯学習課
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 Tel.075-961-5151
発行年月日	平成24年 3月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
							(m <sup>2</sup> )	
<b>遺跡範囲</b>								
包装地外	島本町山崎三丁目 地内	27301		34° 53° 10°	135° 40° 33°	2011.3.8 ～ 2011.3.17	138m <sup>2</sup>	大型スーパー建設に伴う遺跡範囲確認調査
広瀬遺跡	島本町広瀬五丁目 647-1	27301	14	34° 52° 45°	135° 40° 11°	2011.5.24 ～ 2011.5.26	78.8m <sup>2</sup>	個人住宅建設に伴う緊急遺跡範囲確認調査
広瀬遺跡	島本町広瀬一丁目 955-1	27301	14	34° 53° 5°	135° 40° 4°	2011.6.22 ～ 2011.6.30	57m <sup>2</sup>	個人住宅建設に伴う緊急遺跡範囲確認調査
広瀬遺跡	島本町広瀬一丁目 883-1	27301	14	34° 52° 55°	135° 40° 16°	2011.12.13	4.5m <sup>2</sup>	店舗移転に伴う試掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広瀬遺跡	集落	奈良時代～江戸時代	溝	土師器皿・軒丸瓦・軒平瓦	なし

